

# ルーマニア（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在ルーマニア日本国大使館](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

## 1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
1	1	25	3	4	308	9	24	931	10	34	2,444	21	63	3,708

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

## 2.日本語教育の実施状況

### 全体的状況

#### 沿革

1970年代にブカレスト人民大学に市民対象の日本語講座が開設され、1978年より、ブカレスト大学外国語学部にJFから日本語教育専門家が派遣されるようになった。1989年の「革命」までは、この2校以外での日本語教育はほとんど行われていなかった。

「革命」以降は、ブカレストの私立大学3校（スピル・ハレット、ヒペリオン、ディミトリエ・カンテミル）、クルージュ＝ナポカの国立バベシュ・ボヨイ大学、中等教育機関である国立イオン・クレーンガ高校で日本語教育が始まった。

ブラショフ市では、1991年より東京武蔵野市との自治体及び市民による交流が続き、1995年には期間限定の第1回日本語教室が開催され、1998年には「日本武蔵野交流センター」が設立された（2003年に「日本武蔵野センター」と改称）。同センターは長年にわたり日本語教育や日本文化の普及に一定の役割を果たしたが、

2022年に廃止された。

日ル交流団体としては、ブラショフ「日本武蔵野交流センター」のほかにもトゥルグ・ムレシュ「至道」協会、児童の課外活動を実施する「子ども宮殿」(ヤシ、シビウ、トゥルグ・ジウ)などが担い手となり、学校教育以外での日本語教育も盛んになった。

これらの機関のいくつかには、1997年よりJICA海外協力隊の日本語教師が派遣された。2000年初頭には、JICA海外協力隊による日本語教師会が発足、2005年11月にはルーマニア人教師が加わりルーマニア日本語教師会が正式に立ち上がり、2007年11月には同教師会は法人化した。同教師会の主な活動は、日本語プレゼンテーションコンテスト(2017年に日本語弁論大会より移行)及び勉強会の開催・運営、日本語能力試験の実施・運営、近隣諸国での研修会参加などであり、JF派遣の日本語専門家との協力により日本語教師の研修、レベルアップに努めている。2007年のルーマニアのEU加盟により、2009年1月にJICA海外協力隊が完全撤退したため、日本人教師は激減し、現在はルーマニア人教師を中心として教師会が運営されている。

2005年度よりポローニャ・プロセスによる変更で、学士課程が4年から3年になった。

ブカレスト大学では2006年にルーマニア初の日本研究が可能な修士課程が設置され、また、2010年には日本研究センターが設立された。現在、学部3年、修士2年の連続性のあるカリキュラムが模索されている。また2013年度から2014年度にかけて学部カリキュラムの大幅な改定を行った。新カリキュラムはヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)・JF日本語教育スタンダードを取り入れている。

クルージュ＝ナポカのバベシュ・ボヨイ大学では2008年に日本語セクションが主専攻となり、これで日本語を主専攻とする国立大学はブカレスト大学と合わせて2校となった。

JICA海外協力隊が撤退したヤシの子ども宮殿では、ボランティアグループが中心となり非営利協会「ひまわり」を設立、日本語学習の場を維持するとともに、ヤシにおける日本文化の普及にも尽力していたが、現在は活動停止中。その他、クルージュ＝ナポカの日本文化芸術センターのような、日本・ルーマニア両国に関わる人々の間で日本関連の民間組織が作られており、日本語や日本文化に触れることができる機関が増えてきている。

2009年2月より、外務省による「日本文化発信プログラム」が始動し、6名のボランティアが派遣された。JICA海外協力隊撤退後、母語話者教師の不在が大きな問題とされていたが、このプログラムによって再び母語話者教師がルーマニア各地に配置された。しかし、2011年2月、同プログラムが第一期で終了となり、ボランティアは全員帰国した。そのフォローアップとして、外務省の「草の根日本発信プログラム」により2名が、2011年10月より約3か月、ブカレストの高校と地方の大学2か所(兼任)に派遣され、日本語教育を実施した。その後は同様のプログラムはなくなり、母語話者教師の不在により、多くの講座・機関で閉講を余儀なくされている。

ルーマニアの各大学と日本の大学との交流協定(連携大学のインターンシップ制度など)が増加している。また、バベシュ・ボヨイ大学では、2017年に、ヤシ市にあるアレクサンドル・イワン・クザ大学では2025年10月に日本文化センターが設立された。

ルーマニア日本語教師会は、在ルーマニア日本国大使館と共催で20年にわたり日本語弁論大会を開催してきたが、2017年より日本語プレゼンテーションコンテストに移行した。また、2020年から、これまで開催していた日本語教育・日本語学シンポジウムを勉強会へと形を変えて教師研修を行っている。

過去にJICA海外協力隊や日本文化発信プログラムの派遣があったティミショアラ西大学では、2020年2月から課外講座としての日本語クラスが再開されていたが、2023年10月に文・歴史・神学部内に副専攻として日本語講座が開設された。また、ティミショアラ工科大学でも2023年11月から課外講座としての日本語クラスが開講された。同月、ティミショアラ工科大学には日本との協力を目的とした芸術・技術センター「術」、ティミ

シヨアラ西大学には「日本研究センター」も設立された。

## 背景

1989年「革命」以降、日本に関する情報や物品が多く流入したことに伴い、国民の間に潜在的にあった日本への関心が大きくなった。また、二国間の文化交流を促進する友好団体の活動、日本・ルーマニア友好都市間（例：ブラショフ市と武蔵野市）交流などを通じ、草の根レベルでの二国間交流が発展したことも、日本語学習者増加の要因となっている。

## 特徴

ルーマニアでは伝統的に高等教育機関の学習者が多かったが、JF2024年度 海外日本語教育機関調査の結果、学校教育以外での学習者数が2021年度の同調査比3.5倍以上に増え、かつ全体の6割を超えており、民間の語学学校でカジュアルに学ぶ学習形態を選択する傾向が顕著になっている。

日本のアニメやマンガ、J-POP、ゲーム、コスプレへの興味などが、日本語に関心を持つきっかけとなる例が多い。

## 最新動向

国全体の学習者規模は、2021年度 JF 調査時点で1,900人弱だったのが、2024年度 JF 調査時には3,700人強へと大幅に増加した。

日本語能力試験の受験者数も増加傾向で、2025年12月の回では600人弱となり、直近2年で約100人増加した。

2024年秋より、バベシュ・ボヨイ大学で修士レベルの日本語専攻（東アジア研究・調査修士課程）の受入れが開始された。

2025年10月には、ヤシのアレクサンドル・イワン・クザ大学にて日本文化センターが開設した。今後同センターを拠点に日本語教育や日本文化の普及が行われる予定。

## 教育段階別の状況

### 初等教育

異文化理解及び欧州域外の文化と接する機会の提供を目的に、2017年現在、ブカレスト市内の小学校1校で、課外活動として、日本語・日本文化が教えられている。2017年には同校で、ブカレスト大学との交流活動として、同大学の日本語専攻の学生たちが中心となって小学生たちに日本語・日本文化を教えるというプログラムも実施された。また同じくブカレスト市内のアフタースクール（私営の学童保育のような機関）1校で、日本語の授業が開かれている。特に初等教育レベルの子どもたちの日本語・日本への関心が高まっており、今後もさらなる広がりが予想される。上述の小学校と私立の学童保育で教えている教師が2019年度 JF の海外日本語教師研修に参加した。

### 中等教育

首都ブカレストにあるイオン・クレアンガ高校では日本語教育に力を注いでおり、日本語インテンシブクラスを設置の上、週30時間以上の日本語授業を実施している。同校の教員2名は、2016年度 JF の海外日本語教師

研修に参加した。また、その内1名は2025年現在当地日本語教師会会長を務めている。

ブカレストとトゥルゴヴィシュテの中学校ではそれぞれ課外活動として日本語が教えられている。

## 高等教育

ルーマニアの大学では、日本語はダブルメジャーの一つとして専攻できる。国立大学では、ブカレスト大学（日本語は主専攻のみ）、バベシュ・ボヨイ大学（主専攻、副専攻のどちらも可）の2校で、私立大学ではディミトリエ・カンテミル大学、ヒペリオン大学の2校が日本語専攻を持つ。このほか、日本語を選択科目として単位が取得できる大学が3校（ブカレスト経済大学、ルーマニア・アメリカ大学、ティミショアラ西大学）あるほか、ルーマニア・アメリカ大学では大学所属の学生だけでなく、一般を対象とした講座も実施している。また2021年10月からブカレスト工科大学、2023年11月からティミショアラ工科大学にて課外講座としての日本語クラスが開講されている。

文部科学省奨学金のほか、大学間の交換留学制度（ブカレスト大学と奈良教育大学、お茶の水女子大学など数校、ヒペリオン大学と弘前大学、ディミトリエ・カンテミル大学と大阪国際大学、バベシュ・ボヨイ大学と神戸大学など）などがある。

## 学校教育以外

社会人や子どもを対象にした市民講座及び課外活動が国内各地に存在している。2021年度JF調査以降学習者の増加が著しい。

ブカレスト市内には「さくら日本語学校」、「日本語センターあきの」、「紫センター」などの語学学校がある。地方都市では、例えばコンスタンツァの「さくらんぼ協会」でもボランティア中心の日本語講座が開かれている。

また、教育機関に属さず家庭教師などの個人教授を受けて日本語を学ぶ学習者や、インターネットなどを利用した独習者の数も増えてきている。

## 3.教育制度と外国語教育

### 教育制度

#### 教育制度

9-4-3制。

義務教育は、初等教育（小・中学校）9年間、中等教育（高等学校、高等専門学校）の前半2年間の計11年間。

大学は2005年度からボローニャ・プロセスにより学部が4年から3年になった。

#### 教育行政

初等、中等、高等教育機関は教育・研究・青年省の管轄下にある。

## 言語事情

公用語はルーマニア語。

トランシルバニア地方のハンガリー人コミュニティでは、ハンガリー語が話されている。

## 外国語教育

第一外国語開始時期は小学校 1 年生。第二外国語開始時期は小学校 3 年生。

第一、第二外国語として教えられる言語は主に英語、フランス語であるが、その他ドイツ語、イタリア語、スペイン語、日本語を教える機関もある。また、初等・中等教育で少数言語（ハンガリー語、ドイツ語、ウクライナ語、セルビア語、チェコ語、クロアチア語、トルコ語など）による教育を行う機関もある。

## 外国語の中での日本語の人気

英語や欧州言語とは違い、日本語は実用的な言語というよりは、ポップカルチャー（特にアニメやマンガ）や伝統文化を学ぶ「異文化理解」の一部として捉えられている。

## 大学入試での日本語の扱い

大学の入学資格検定に必要なバカロレア（高校卒業試験）では、1999 年度から日本語を選択することができるようになった。

## 4. 学習環境

### 教材

#### 初等教育

初等教育機関では、絵カードや日本の幼児向け教材などを使用しているようであるが、現在初等教育機関の学習者にふさわしい教材を模索中である。

#### 中等教育

中等教育機関では、『みんなの日本語』スリーエーネットワーク（スリーエーネットワーク）や『げんき』坂野永理ほか（The Japan Times）などが使われている。イオン・クレアンガ高校では『まるごと 日本のことばと文化』JF（三修社）の導入を検討している。

#### 高等教育

日本で出版されたものを教科書にしている場合が多い。使われているものとしては『みんなの日本語』（前出）、『げんき』（前出）、『BASIC KANJI BOOK』加納千恵子ほか（凡人社）などがある。

教材開発については、これまで作成した自作教材をまとめてテキスト化した『Nihongo o benkyō shiyō! Manual de limba japoneză pentru anul I』が 2010 年秋にブカレスト大学から出版された。

また 2016 年には、ブカレスト大学から、派遣専門家と指導助手の協力を得て、ルクサンドラ・ラヤヌ・黒田朋斎共著『意味と機能からわかる日本語文型解説 I』、『同 II』、ルクサンドラ・ラヤヌ・千々岩宏晃共著『初中級場面別語彙集かけはし』、『中級場面別語彙集きざはし』、ルクサンドラ・ラヤヌ著『日本語上級文型解説』が出版されている。

## 学校教育以外

『にほんごかんたん』坂起世ほか（研究社）、『みんなの日本語』（前出）など。その他、ルーマニアで作成された教材としてアンジェラ・ホンドル著『日本語入門』、『日本語会話』、ラルカ・ニコラエ著『常用漢字』がある。

2013年と2014年に出版された『まるごと 日本のことばと文化』（前出）についても、日本語専門家によるCEFR・JF日本語教育スタンダード研修や国内各都市でのワークショップ開催などにより、現地教師の理解も深まってきているので、今後使用する学習者・機関が増えていくことが期待される。

## IT・視聴覚機材

特になし。

## 5.教師

### 資格要件

#### 初等教育

日本語教師としての資格要件は特に定められておらず、日本語学習経験のある現地人教師が教えている場合がほとんどである。

#### 中等教育

日本語教師としての資格要件は特に定められていないが、実際には日本語専攻の修士号以上の取得者。ただし、初等教育でも中等教育でも専任教員となるためには、国家試験に合格する必要がある。

#### 高等教育

博士号取得者、または博士課程在籍者が最低条件。

## 学校教育以外

日本語教師としての資格要件は特に定められていない。学位保持にかかわらず、日本語学習経験や日本滞在経験がある現地人が教えている場合がほとんどである。

## 日本語教師養成機関（プログラム）

日本語教師養成を行っている機関、プログラムはない。

## 日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

国立の教育機関ではEUの市民権を持たない日本人教師の専任としての雇用は非常に難しいが、ブカレスト大学には1名の日本人教師が雇用されている。私立の教育機関でも日本人教師を雇用する場合もある。また、JFの給与助成を受けている機関もある。いずれにしても、労働ビザ取得やその他の手続きが煩雑で時間がかかり、ま

た教育機関の資金不足もあり、日本人教師の雇用は難しい状況である。

## 教師研修

- ルーマニア日本語教師会主催 日本語学・日本語教育シンポジウム（2019年まで） 2020年からは年2回ほど勉強会を開催
- ブカレスト大学主催 日本語教育勉強会（直近の開催は2023年12月）
- ブカレスト大学主催（JF助成）日本語教育シンポジウム（直近の開催は2022年3月）

## 現職教師研修プログラム（一覧）

（国内）

上記の勉強会やシンポジウム

（海外）

- JF ブダペスト日本文化センター主催の中東欧日本語教育研修会への被招へい参加
- JF主催の海外日本語教師研修など

## 6.教師会

### 日本語教育関係のネットワークの状況

2005年11月、正式にルーマニア日本語教師会が発足し、2025年現在約31名が会員となっている。教師会の活動としては年に一回の勉強会の開催（2019年まではシンポジウムの開催）、日本語プレゼンテーションコンテスト、メーリングリストによる各種情報の共有などを行っている。2010年から日本語能力試験の実施機関となっている。 [教師会・学会一覧へ](#)

### 最新動向

2025年3月に第9回日本語プレゼンテーションコンテストを開催し、翌日にJF日本語教育アドバイザーを講師とした勉強会を開催した。

2026年3月に第10回日本語プレゼンテーションコンテストと勉強会を開催予定。

## 7.日本語教師派遣情報

### 国際交流基金からの派遣

JFからの派遣は行われていない。

### その他からの派遣

（情報なし）

## 8. シラバス・ガイドライン

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

## 9. 評価・試験

毎年1回（12月）、ルーマニア日本語教師会が実施機関となり、ブカレストにて日本語能力試験が実施されている。

## 10. 日本語教育略史

1970年代	ブカレスト人民大学にて市民対象の日本語講座開設
1978年	ブカレスト大学外国語学部にJFより日本語教育専門家派遣開始
1997年	JICA海外協力隊の日本語教師派遣開始 イオン・クレンジング高校にて日本語教育開始
1998年	私立スピル・ハレット大学（日本語は閉講）、国立バベシュ・ボヨイ大学にて日本語教育開始
1999年	ヒペリオン大学にて日本語教育開始 バカロレアで日本語が選択できるようになる
2000年	日本語教師会発足、ディミトリエ・カンテミル大学にて日本語教育開始
2004年	第1回日本語能力試験がブカレストにて実施
2005年	ルーマニア日本語教師会発足
2007年	ルーマニア日本語教師会法人化
2008年	バベシュ・ボヨイ大学の日本語セクションが主専攻化 アレクサンドル・イワン・クザ大学で選択科目としての日本語クラス開講（現在は閉講）
2009年	外務省による「日本文化発信プログラム」が始動。6名のボランティアが派遣される
2011年	「日本文化発信プログラム」終了

2018年	JFの指導助手派遣終了
2021年	ブカレスト工科大学にて日本語教育開始
2023年	ティミショアラ西大学及びティミショアラ工科大学にて日本語教育開始
2024年	JFの日本語専門家派遣終了
2024年	バベシュ・ボヨイ大学で修士レベルの日本語専攻（東アジア研究・調査修士課程）開講
2025年10月	アレクサンドル・イワン・クザ大学にて日本文化センター開設

## 情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。  
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

**Eメール：kunibetsu@jpf.go.jp**

**（メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください）**